

出産経験のある女性アスリートの競技継続に影響した要因
～日本代表経験のあるアスリートを対象とした質的研究～

クラブマネジメント研究領域

5023A314-3 角 かずみ

研究指導教員：間野 義之 教授

東京 2020 大会では、日本が獲得したメダルの 51.7%が女性種目(混合を除く)だった。女性アスリートの活躍が目覚ましい中、日本の課題に挙げられるのが女子選手の平均引退年齢の低さである。日本の女子選手の平均引退年齢は 26.9 歳と外国と比べて早く、子供を産んだら引退の風潮がある。

一方、一般社会に目を向けてみると、女性の出産後の就業継続率は年々上昇しており、第 1 子の妊娠が分かった時に就業していた女性の就業継続率は 69.5%に上る。女性が職業を持つことに対する意識が女性自身だけでなく、男性を含め社会全体として変化してきたこともその背景にあるとみられている。

このような時代背景から、産後も競技を継続したいと考える女性アスリートが増える一方で、目標となるロールモデルが身近にいないことなどから、女性アスリートは未来を描きにくい環境に置かれているのが現状である。

一般的な有職女性の「仕事と子育ての両立」に関する研究は職種別に多く行われているが、女性アスリートを対象とした「競技と子育ての両立」に関する研究は少ない。その中でも周囲の環境や制度、必要な支援に目を向けたものが多く、復帰継続を促進するための内的要因を明らかにした知見は限られている。本研究では私的領域に踏み込み、産後、競技に復帰した女性アスリートがどのよう

な考えを持って競技復帰を決断し、継続したのかという内的要因と、どのようなサポートを周囲から受けていたことで競技を継続することができたのかという外的要因を明らかにすることで、今後、競技と家事や育児を両立させたいと考えるアスリートの一助になりたいと考えた。アスリートは多くの人に勇気や感動を与えることのできる象徴的存在である。アスリートがどのような考えをもち、サポートを受けて困難に立ち向かっているのかを明らかにすることで、社会の一員として産後も仕事と子育てを両立するすべての女性の一助になりたいとも考えた。

本研究では、国立スポーツ科学センターが行う女性アスリート支援プログラムを受けることのできる日本代表の経験があり、五輪や世界選手権など世界トップレベルの試合に出場した 12 選手に半構造化インタビューを行った。出産経験のある女性アスリートの競技継続に影響した要因をテーマ分析法により分類した結果、187 のコードが抽出された。それらを 31 のサブテーマ、12 のメインテーマに集約し、大内による女性の就業継続における 3 要因(2012)である、(1)個人の意識、(2)家族状況、(3)仕事・職場状況に分類した。

(1)個人の意識においては、①強い競技復帰への思い、②産前の自分を目標にしない、③サポートしてくれる周囲に対して、申し訳

ないという思いをかき消す、④短時間の練習でも最大の効果を生む工夫をする、⑤産前に成績を残すなど、復帰を想定した入念な準備であった。

(2)家族状況においては、精神面のサポートに加え実質的なサポートを複数から受けられることが重要であった。仕事などで忙しいパートナーに変わって、パートナー以外の家族は保育園の送迎、家事など実質的なサポートを提供できる傾向にあった。パートナー以外のサポートをいかに受けることができるかが、競技継続に影響していることが見受けられた。

(3)仕事、職場状況においては、ロールモデルが産後のスムーズな競技復帰にプラスの影響を与える可能性があった。また、第一線で活躍していた産前より、競技レベルが低くても出場することのできる大会があることで、自分のペースで競技を継続し、時間をかけながらも競技の第一線に戻ってくることができたアスリートがいたことも明らかになった。

本研究により、出産経験のある女性アスリートの競技継続に影響した要因を複数、明らかにすることができた。ママになってもアスリートとして活躍する「アスママ」の私的領域に踏み込むことで、有益な研究結果を得ることができた。